

# 赤ちゃんの事故防止について

子どもの死因の上位には「不慮の事故」があります。

子どもはいろいろなものを見て、聞いて、触って、味わって、いろいろな事を全身に感じて大きくなります。好奇心いっぱいの子供達は目の前の物や周りが「危ないかも・・・」とは考えられません。そのため、思いもよらなかった事故が起きてしまうことがあります。

安全と思っていた家の中にも危険がたくさん潜んでいるので、注意が必要です。

特に赤ちゃんに起こりやすい事故として、窒息、やけど、転倒・転落等があります。周囲が気をつけることで防ぐことができるものが大部分です。大人たちが子どもの身の回りの環境に注意を払い、対策を立てながら、安心安全に子育てをしていきましょう。

## ～起こりやすい事故と予防のポイント（0～1歳くらい）～

### うつぶせで寝て、顔が柔らかい寝具に埋もれる

【注意ポイント】

1. 顔が沈むような柔らかい布団やシーツ、枕は使用しないようにしましょう。
2. 1歳になるまでは、寝かせる際、あお向けに寝かせましょう。

### ベッドと壁の隙間などに挟まれる、家族の身体の一部で圧迫される

【注意ポイント】

1. 大人用ベッドと壁や後付け柵の隙間などに頭や顔が挟まることがないように、できるだけベビーベッドに寝かせましょう。
2. 同じ寝具で就寝している際に、大人の身体の一部で圧迫してしまわないよう、できるだけベビーベッドに寝かせましょう。

### お茶、みそ汁などでのやけど、アイロンでのやけど

【注意ポイント】

1. 子どもの手が届かないように、高温の飲み物や汁物をテーブルに置く際は中央に置き、また子どもを抱っこしたままお茶などを飲まないようにしましょう。
2. アイロンやヘアアイロンを使用する際は子どもを近づけないようにし、使用後はコードを含めて、手の届かないところに置き、なるべく早く片付けましょう。



### 熱いミルクや熱湯でのやけど

#### 【注意ポイント】

1. ミルクは数滴手に落として温度を確認しましょう。
2. 入浴の際には、お湯やシャワーをかける前には温度確認をしましょう。

### 大人用ベッドやソファ、ベビーベッドからの転倒・転落

#### 【注意ポイント】

1. できるだけ大人用ベッドは使わないようにしましょう。  
また、ソファで寝かせないようにしましょう。
2. ベビーベッドを使用する時は、常に柵を上げて使用しましょう。



### 抱っこひも使用時の転落

#### 【注意ポイント】

1. 抱っこひも使用時に物を拾う等、前にかがむ際は、必ず子どもを手で支えましょう。
2. おんぶ、抱っこする時や降ろす際には、低い姿勢で行いましょう。



問い合わせ先：津山市健康増進課  
TEL：0868-32-2069